

荷尊直皆大名後世說者多歧耳

〔類聚名義抄八〕艸 藜荷穢音

〔下學集下〕藜荷 藜荷穢音 藜荷穢音

〔運步色葉集見〕若荷 藜荷

〔易林本節用集穢音〕藜荷

〔多識編二〕藜荷 米賀 又稱美也宇加

〔東雅十三〕藜荷 倭名鈔に馬琬食經を引て藜荷はメガ赤色者爲佳と註せり即今メウガと

いふものは是也義不詳或人の説にメガとは若荷の字の音をよぶなりといふ然かるべしとも思
えたりメカとは其芽の赤きをいふなるべし

〔倭訓後編十六〕めうが 藜荷を訓ず和名抄にめがと見えたり芽香の義なるべし字音にはあ

らじ俗に芽をめうがだけといひ花をめうがのことといへり莖は干て軍用の草鞋とすべし根を
眼科にめう石とす藪めうがは花めうがともいふ實を伊豆縮砂と稱せり山めうがは嵩良姜也

子を紅豆蔻と名くといへりめうが草あり俗説に藜荷を多く食へば愚ならしむるといふは東
坡が志林に本草に生姜多食損智とあるによて无恠吾愚吾食姜多矣と戯れし事ありしを訛り

て傳へいふなるべしといへり

〔傍廂前篇〕藜荷 生薑

藜荷をメウガといひ生薑をセウガといへるは俗の音便なるべし和名抄に藜荷米加蓋久禮乃
波之加美とありてメウガともセウガともなし同じ形容なれば藜を米加といへるによりて蓋
を兄香として妹兄の義にかなへたるなるべしいづれも香氣のある中にわきて蓋は香氣深け
れば兄香といひしをセウガと誤り妹香をメウガと誤りしなるべし皆音便より崩れたるなり